

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の希望に応じて地域との交流が持てるようにしていくということを基本に、一人ひとりの地域交流の持ち方を考えている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の話し合い、職場会議、ケアカンファレンスの時々には理念をもとに話し合っているように努めている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会や家族の来所時に（介護計画の話も含めて）話すようにしている。理念は各フロアの見やすいところに掲示している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	グループホームの立地が住宅街の端にあり、近所の中に入っていくことに難しい点があるため、日常的な付き合いができるまでには至っていない。	地域の各会と連絡をとってつながりを持っていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加している老人会とのつながりを持っていけるように考えている。	運営推進会議で助言をいただきながら、近所の老人会福祉部とのつながりを持っていけるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在地域の高齢者の暮らしに役立つようなことは実施できていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議を通じて評価が全体に浸透するようにし、改善に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、運営推進会議構成員の協力により、地域の行事にも参加できるようになり、入居者が地域に入れるようになってきた。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて連絡を取っている。	○	行き来する回数を増やして様々な情報を収集したり、サービスの向上のための相談を行ったりしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	適宜関係機関と相談しながら、開設以来2名の方の手続きに関わってきた。		全職員が研修の機会を持ち、入居者の相談に応じられるように努めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議、勉強会で意識の向上に努めている。また、入居者の家族からのどんな意見も吸い上げ、状況の変化に注意している。		研修の機会を増やしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約を結ぶ際には、家族との話し合いを十分に持つようにしている。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	いつも入居者の話しに耳を傾けるようにしている。また言葉で表せない方もいるため、表情や行動の変化に注意し、心の動きを把握するように努めている。何かあれば職員会議で報告している。	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	連絡事項がある際は、家族の来所時や適宜連絡するようにしている。	定期的に状況報告や連絡を行い、行事の写真等も送付できるようにしていきたい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族の来所時には必ず声をかけて、職員となじみの関係を築けるよう努めている。また、玄関にご意見箱を設置している。	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	日頃から職員との話し合いの場を持っている。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	現在入居者の状況や要望を考えて、遅出の時間を調整し、夜間の入浴にも対応できるようにしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は転入のみであり、転出の異動はない。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場勉強会を定期的実施し、また法人内の研修は段階に応じて行っている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの指導の下、地域内のグループホームが集まり情報交換等を行っている。近隣のグループホームとは月1回の交流会を実施している。	○	管理者は交流の機会はあるが、全職種が他のグループホームとの交流を通じて情報交換を行い、ケアの向上に向けた勉強が出来るようにしていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は職員のストレスを聞き出し、その解決に努めるような体制を整えている。		職員一人ひとりとの対面時間を持っている。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員に年2回フィードバックシートを用いて、面談等を通じて職員の実績を評価し、各自が向上心を持って働けるよう援助に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に必ず見学に来ていただき、本人又は家族から希望等を確認するようにしている。入居時には更に詳しい話しが聞けるように、書面で持って確認している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居までにいつでも本人、家族が来所あるいは電話で相談できるようにしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に必ず本人、家族との面談を行い、必要されている支援を確認し、計画作成担当を含めた職員で検討するようにしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	個々の状況に応じて関わりの時間、方法を考慮する。入居前から家族と相談の上、電話、訪問等を行い、宿泊することの理由を統一して答えるなどの工夫をしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に家事をすることにより入居者に教わることも多々あり、またレクリエーションで楽しい時間を共有することでお互いの思いを感じることが出来るよう努めている。	○ 1対1で対応できる時間を多く持ち、更に支えあう関係を高めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来所時や電話連絡をした際には状況を報告を行い、嬉しいことは一緒に喜び、辛い表情があった時にはその原因の解決のために相談できるようにしている。、	○	定期的な状況報告や行事写真等をお渡しできるようにしたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族への思いが見られたときには必要に応じて状況を報告し、できるだけ対応がとれるよう相談を行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームとして十分に支援できていない。家族の協力を得ながら個人の時間を利用して、支援できるように努めていきたい。	○	入居者1名が地域の教会に行きたいとの希望を持っているため、希望に沿えるよう計画中。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活の中での行動、発言等を見守り、職員同士で情報交換をしながら考慮している。		席順等を変更したり、様々な作業を行う時に仲間を考慮したりしている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホーム側から連絡することはしていないが、会う機会が出来た際には必ず声をかけて状況を確認するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに話を聞く機会を持つようにし。職員は常に入居者が何を望んでいるかを把握するように努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人又は家族から、生活歴や馴染みの暮らし等について話しがあれば、記録に残して職員に周知するように努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一緒に話、作業をする中で、多方面から入居者を見ることに努め、記録に残し、他の職員たちとも話し合うようにしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日のケアの中で状況の記録、気づきの記録に努め、ケアカンファレンスには家族の意見も含めて、介護計画を作成している。	○ 現在ケアカンファレンスへの家族の参加を検討中。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎月のモニタリングを実施し、3ヶ月に1回見直しを行っている。変化があれば必要に応じて見直している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が一人ひとりの介護計画を把握し、それに基づいての記録が出来るように努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一人ひとりの要望を聞き出すことに努め、状況を見ながら様々な支援が出来るようにしている。	○	更に職員の意識を高め、業務の見直しを行っていき、少しでも要望に応じていけるようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在協働できていない。	○	傾聴ボランティア、お花、習字等、一人ひとりに合ったボランティアの協力を得られるようにしたい。また、地域の図書館や美術センターに行くことも考えている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて法人内のケアマネジャーやサービス事業者に相談したりしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等で助言をいただいたり、相談したりしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回の往診の際に変化があれば看護師、職員から連絡をしている。医師からの指示、家族からの要望等があれば医師との話し合いを持てるようにしている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族と相談の上、老年科への受審を支援している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設老健の看護師を配置し、常に連絡を取れる体制を確保している。必要に応じて家族への連絡も行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関へ入院した際は毎日状況を確認し、家族へ連絡するようにしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	配置看護師を中心に、医師、家族とも連携を図ったうえで全員で方針を共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師の指示の下で、家族とも相談しながら、その方が安心してその人らしく生活できるよう職員全員で話し合い、支援していけるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族から生活習慣を確認したり、居室になじみのものを持ってきていただいたりして、少しでも安心できる空間になるよう考慮している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識を高めて、一人ひとりの誇りやプライバシーを大切にしながらの関わりに努めている。勉強会や詰所会議等で話し合っている。	○	記録の仕方の勉強会を実施していきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の言葉に耳を傾け、本人が望んでいることに気づけるよう努めている。また入居者の思いを尊重するよう支援している。(入浴や衣類の決定、食事、レクリエーションの参加など)		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人や家族から今までの暮らし方を確認し、望んでいる生活がどのようなものであるか職員同士で話し合い、希望に沿った支援を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望を確認しながら、家族と相談のうえ行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切る人、味見をする人、配膳をする人、洗い物をする人と、それぞれの状況に合わせて役割を持っていただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在喫煙希望の方はいないが、以前は場所を決めて対応していた。お酒については本氏の楽しみであること、周囲との関わりを考えて検討している。	○ 飲酒に関しては、まずは個人外出の時間を利用して、外食時に飲めるようにしてはと考え、家族とも相談を行っている。また、ノンアルコールの飲用を家族と相談しながら検討している。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	家族と相談のうえ、入居者のプライドを考慮しつつ声掛けを行い、個人の状況に応じた支援を行っている。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を尊重しながら、時間、頻度等考慮している。	○ 現在業務時間の見直しを行っており、希望や本人の状況に応じて夜間入浴にも対応できる体制を確保している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は居室、リビング、中庭等で自由に過ごしていただいている。夜間眠れない方には見守りを行ったり、話しをして気持ちを安らげたり、ホットミルク等で体を温めたりしている。	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴、楽しみごとなどは記録に残し、職員会議やケアカンファレンスの中で話し合ったうえで、出来ることから実現していけるように支援している。	○ 一人ひとりの外出や外食の機会の確保、職員と一対一で何かをするという時間を確立していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際、支払いをしていただいたりしている。	○	買い物だけでなく、夏祭りの出店やホーム内での模擬店で実際にお金を使っていただける機会を確保していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりに合った外出を企画したり、希望される物を買に出かけたりしている。	○	一人ひとりの時間を作ることで、教会に行きたい、おいしいものを食べに行きたい、散歩に行きたい等の希望に対応した外出を企画している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出を企画する際には家族にも連絡し、参加を促している。	○	可能な限り外出希望がある場合は、家族に連絡し参加を呼びかけていく。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば掛けられるよう援助している。手紙等に関しては、家族の意見を聞きながら援助している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人、知人等の訪問は歓迎している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全な方法を模索しながら、身体拘束を行わないケアを提供している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜以外は開放している。表門は中庭が広く、見守りが十分に出来ない恐れがあり、また前面に大きな道路が走っていることもあり閉鎖している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は一人ひとりの状況を把握し、昼夜の行動の違いを理解して見守りを行っている。変化があれば職員同士で連絡し合えるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	電気ポット、炊飯器、乾燥機等は十分な見守りを行える際には設置し、そうでない場合は保管するといった策を講じている。包丁、ハサミ、薬品については施錠できる場所で保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒の危険性、嚥下の状況、薬の内容等、職員間で話し合い、情報を共有したうえで事故防止に努めている。ヒヤリハット、事故報告は必ず全員が目を通すようにしている。火災については年に2回訓練を実施。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会に参加して定期的に訓練を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員の意識啓発に努めている。訓練の際も、順番に全ての職員が参加できるよう配慮している。	○	地域の人々にも協力を得られるよう働きかけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	普段から状況を報告することに努め、状況に変化があれば安全に、安心して生活していただける方法を家族と共に話し合っている。		足元の安全のため靴、脚の筋力低下防止のための方策を検討、薬についての相談等。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック、食事量、水分摂取量の把握、排泄回数のチェック、顔色や行動の変化への注意等、体調の変化や異変には早期発見に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診の際に医師より説明を受け、家族にも報告を行っている。不明な点や変化があれば、医師、看護師に相談している。服薬の支援も適宜行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック、食事量の把握を徹底している。状況に応じて、水分摂取を促したり、フルーツや繊維質の摂取等配慮を行っている。また散歩などの適度な運動も支援している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりに合った口腔ケアの声かけを行い、見守り、又は援助もあわせて行うことで口腔内の清潔保持に努めている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みに配慮しながら、バランスも考慮して支援を行っている。	○	入居者の希望に沿えるよう考慮している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	医師、看護師の指導の下、予防策を講じている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日塩素と熱湯の消毒を実施。調理の際は手洗いを励行。食物の保管にも十分注意し、調理中心温度は75℃以上を確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に手作りの看板を設置している。	○	併設の施設に隠れて見えにくいので、更に見つけやすい目印等を検討していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレがフロアから近く、見えるのでつい立を使用して見えないよう配慮している。フロア内に季節の花を飾ったり、室内装飾を季節感のあるものにしたりにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや中庭で自由に過ごすことができるよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時あるいは適宜、本人や家族の意向を確認し たうえで、使い慣れた机やタンス、イス、趣味に 関するものなどを持ってきて使用していただい ている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	昼夜ともに快適な室温を心がけている。午前と午 後には換気を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	廊下、居室に段差はなく、玄関も出入りしやす くなっている。廊下、トイレ、浴室には手すりが設 置されており、安全な移動に配慮している。居室 内には洗面台も設置されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室を迷われる方には人形等の目印をつけて、居 室間違い等を防ぐよう配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	建物の外周りに畑を耕し、作物を作り、収穫を楽し めるよう工夫している。中庭の空間も自由に過 ごせる場所となっている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者さんの生活の安定を図りつつ、その人らしいそれぞれの生活を過ごせるように職員だけではなく入居者さんと家族さん地域の方達と共働で話し合いの機会をもちながら環境を整えるよう取り組んでいます。